【入門編】

なぜ、BIを入れても
現場の数字は合わないのか？

データ活用を成功に導く基盤づくりの考え方

パナソニック デジタル株式会社



アンケートにご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします


アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

必須 1.会社名

必須 2.お名前

必須 3.セミナー資料を希望されますか

○ 希望する

○ 希望しない

セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。
ご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします。

Panasonic

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

岡本 侑璃

Okamoto　Yuri

社名：パナソニック デジタル株式会社

所属：営業推進統括部

ミッション：民間企業様向けセールス



本日お伝えすること

1

原因を知る

BIを入れても数字が
合わない4つの理由

2

基盤を理解する

集める・そろえる・
加工する

3

3つの考え方

SSOT・論理統合・
システム導入

4

実例と実装

管理会計BI化事例
とASTERIA

Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

同じ会社の、同じ数字なのに合わない



定義が違う

対象範囲、計上日、取消の扱いが部門ごとに異なる

元データが違う

ERP、CRM、Excelなど、参照元が統一されていない

更新時点が違う

リアルタイム、日次、月次のデータが混在する

加工が属人化

抽出・補正・集計ルールが担当者ごとに異なる

BIは違いを映し出せても、データの意味や流れまでは自動で統一しません

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

チェックシート｜いくつ当てはまりますか？

- ☐ 会議のたびに「どの数字が正しいか」の確認から始まる
- ☐ 同じKPIでも部門ごとに計算方法や対象範囲が異なる
- ☐ BIへ渡す前にExcelで加工・結合・転記している
- ☐ 更新タイミングがシステムごとに異なる
- ☐ 元データや加工ルールを知る担当者が限られる
- ☐ BI画面はあるが、現場の判断や行動につながらない

複数当てはまる場合、BIの追加開発より先にデータ基盤の前提整理が必要です

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

データ活用基盤の役割



この3つを継続的に回すために、基盤づくりの「3つの考え方」が必要です

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

基盤づくりでおさえる３つの考え方

01
SSOT

何を「正しい数字」とするかを決める

正本・定義・責任

02
論理統合

データを移し切らず、
必要な時につなぐ

接続・変換・連携

03
導入プロセス

製品選定より先に運用を設計する

目的・実装・改善

3つは別々ではなく、SSOTを定め、論理統合でつなぎ、運用できるシステムとして実装します

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

考え方１｜SSOT：信頼する数字のよりどころを決める

SSOT：Single Source of Truth は「全部を1か所へ集めること」ではなく、正本と定義を明確にする考え方

正本を決める

売上、顧客、商品など、項目ごとに参照元を明確化

定義をそろえる

対象範囲・計上日・取消・集計粒度を共通化

責任を決める

誰が定義し、変更し、品質を担保するかを明確化

SSOTの目的は、データを一つにすることではありません。
数字が食い違ったときに、どの定義・どのデータへ戻るかを決めることです。

数字が合う状態 ＝ 正本・定義・責任が共有されている状態

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

考え方２｜論理統合：データを移し切らず必要な時に繋ぐ



既存システムを残せる／段階的に始めやすい／変更へ対応しやすい

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

考え方３｜導入プロセス：製品選定より先に運用を設計する

1

目的・対象

どの数字を、誰の判断に使うか

2

データ設計

正本・定義・品質・更新頻度

3

連携実装

接続・加工・スケジュール・監視

4

運用・改善

責任者・変更管理・利用状況確認

小さく導入 → 利用する → 課題を確認 → 改善する、を繰り返す

成功条件は、機能の多さではなく「継続して使い、変更できること」です

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

3つの考え方を基盤づくりへ落とし込む

SSOT

正本と定義を決める

どのデータを信頼するか

論理統合

つなぎ方を決める

集約と連携を使い分ける

導入プロセス

運用まで設計する

小さく導入し改善を回す

次に、この3つの考え方を管理会計BI基盤へ適用した事例をご紹介します。

事例を見るポイントは「BI画面」ではなく、正本・連携・運用をどう設計したかです

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

事例｜経理部門の管理会計BI化

BEFORE

経営報告のたびに、データ抽出とExcel加工を繰り返す

- ☐ **手作業での抽出** 都度データを取得
- ☐ **Excel人海戦術** 集計・照合・資料化
- ☐ **加工が属人化** 手順が特定担当者に依存
- ☐ **情報鮮度が低い** 完成時には数字が古い

解決アプローチ

業務の再設計とデータ基盤を、1つの変革として推進

業務施策 新業務フローへ再設計／運用手順を標準化

IT施策 抽出・加工を自動化／BIで定型・非定型分析を共有

管理会計システム
実績・計画

→

EAI（ASTERIA Warp）
1分間隔で抽出

→

データマート
用途別に整備

→

BI（Tableau）
可視化・共有

BI画面だけでなく、データ収集・加工・運用まで一体で見直したことがポイントです

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.
Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

事例で見る｜導入プロセス4つをどう実践したか

1

目的・対象

経営判断の迅速化

報告準備を効率化し、
差異分析・情報提供へ注力

2

データ設計

正本と用途を整理

実績・計画を正本に、
用途別データマートを設計

3

連携実装

収集・加工を自動化

EAIでデータを抽出し、
BIまで継続連携

4

運用・改善

業務担当が自走

運用手順を標準化し、
自ら分析できる体制へ

Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

実装では何が必要？



論理統合を継続するために、次の仕組みが必要です

1. **接続** 異なるシステム・DB・ファイルへ接続
2. **加工** 形式・項目・コード・粒度を変換
3. **実行** 定期実行・差分連携・処理順序を管理
4. **運用** エラー確認・再実行・変更へ対応

接続・加工・実行・運用を一元管理する仕組みが、EAIです

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

論理統合を支える ASTERIA Warp

ERP・SFA・SaaS
業務システム

Excel・CSV
ファイル

DB・クラウド
データ基盤



BI・分析
Tableauなどへ提供

クラウド連携
各種サービスへ連携

業務自動化
定期処理・ファイル連携

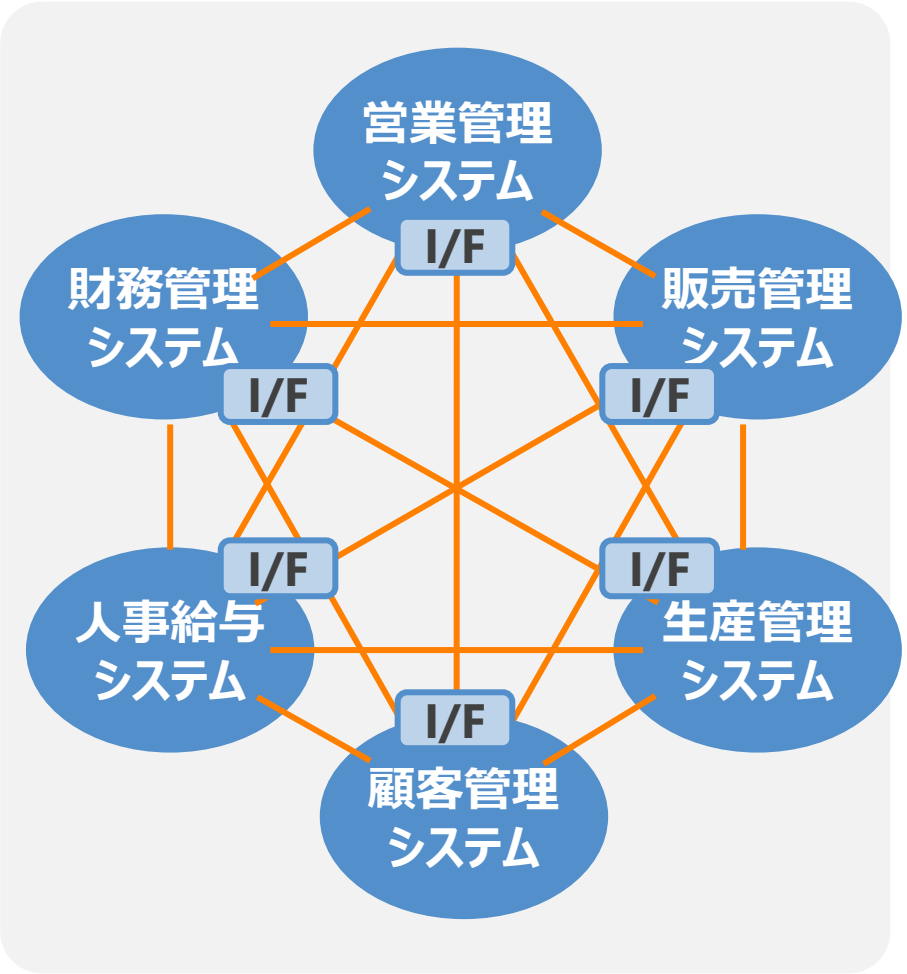
既存システムを活かし、必要なデータを集め・加工し、継続的に連携します

Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

EAIについて

※EAI ： Enterprise Application Integration

インターフェースに関するコスト削減を求めて**EAIツールをご利用のお客様が増加**





連携の一元管理で対応スピードがアップ

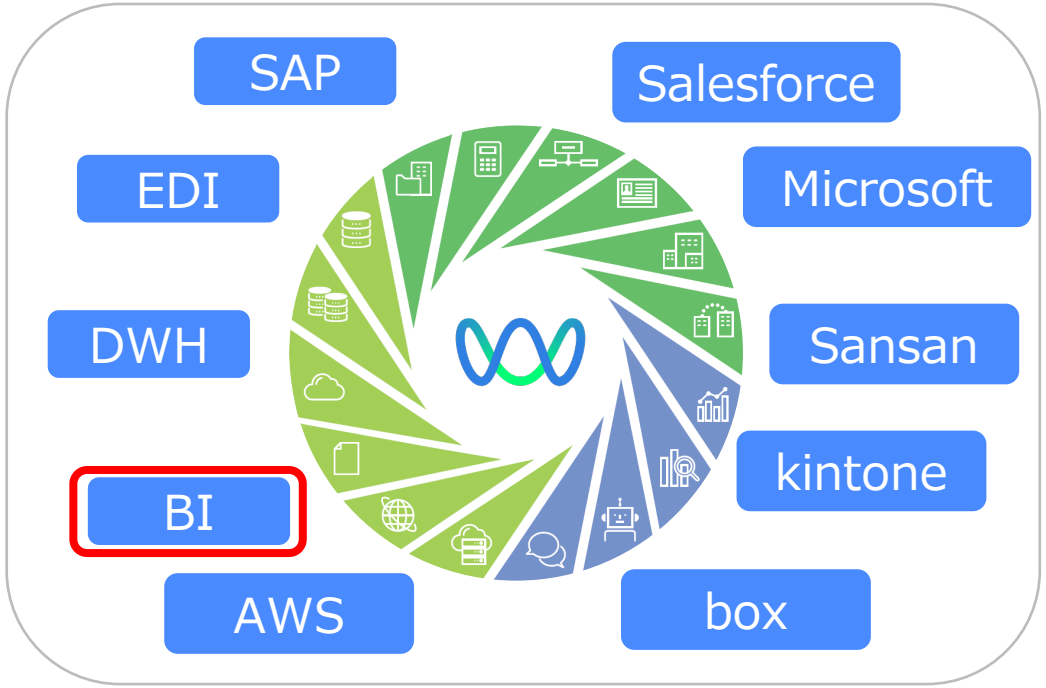
連携を一元管理することで、モニタリングが可能に。
障害発生も即時に把握でき、リカバリーまでの期間を短縮できる。

Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

ASTERIA Warp とは

ノーコードで設計開発を行うことで、様々なシステムやサービスと連携し、
業務の効率化やデータの活用を実現するデータ連携ツール

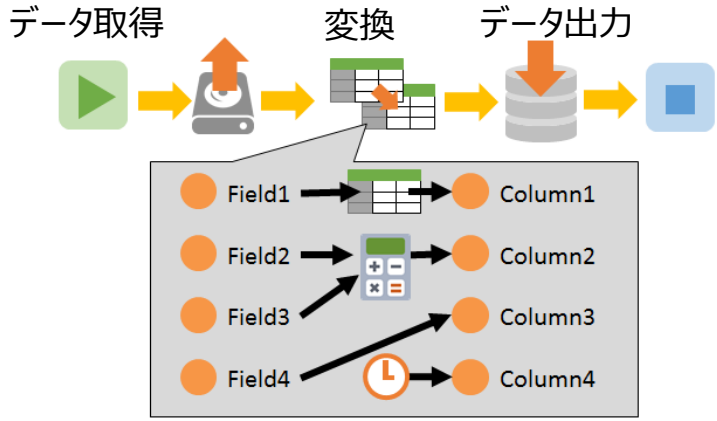
100以上のサービスやシステムと迅速に連携



Asteria warp

スケジューラー起動

シンプルな操作で超高速開発



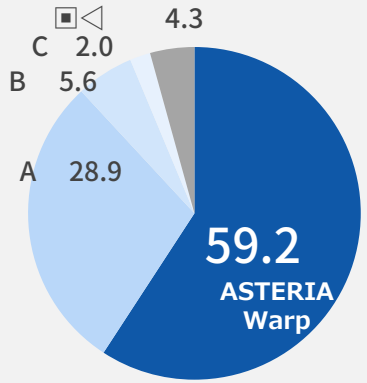
アイコンを並べて
ノーコードで
データ連携を定義します

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

ASTERIA Warpが選ばれる理由

理由 1

国内シェア No.1

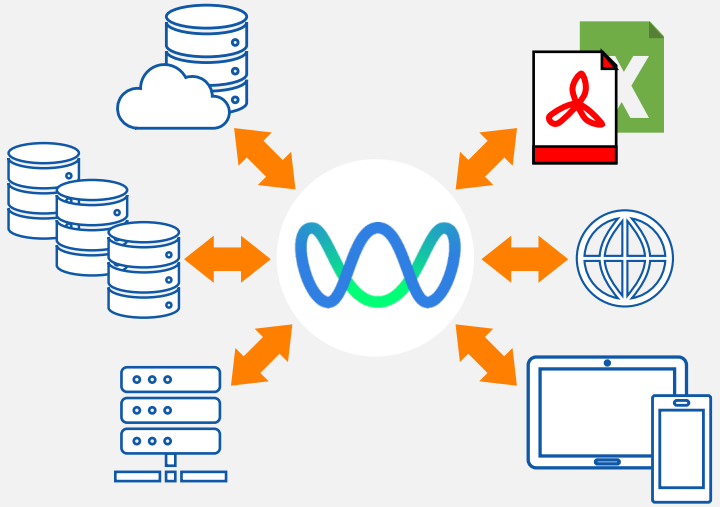


19年連続国内シェア No.1
導入実績を誇る業界の
デファクトスタンダード製品！

出典：テクノ・システム・リサーチ「2025年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」

理由 2

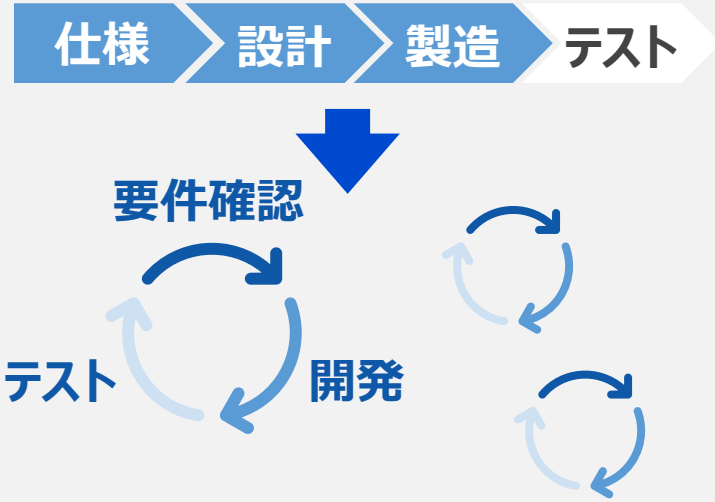
ニーズに答える 豊富なアダプタ



ERP接続のアダプターも豊富
API連携にも対応

理由 3

開発人材が豊富 ノーコードツール



ノーコードなので開発が簡単に
メンテナンス性も向上

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

パナソニック デジタルの取組

サービスをつなぐASTERIA Warp＋
パナソニック デジタルの独自のEAIサービスにより
お客様のデータ連携を支援しております

パナソニック デジタル







①独自テンプレート/標準ドキュメントにより開発期間の短縮

②豊富な支援メニューにより
お客様の内製化も合わせて支援

③実績・ノウハウがあるSEにて
導入・開発・運用各フェーズでアドバイス

Panasonic
Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

まとめ｜BIを活かすために

1

数字が合わない原因を分解

定義・元データ・更新・加工

2

SSOTを決める

正本・定義・責任を共有

3

論理統合でつなぐ

既存システムを活かして連携

4

導入後の運用を設計

小さく始め、改善を回す

BIを活かす第一歩は、「正しい数字を探す」ことではなく、
数字が同じ意味で届き続ける仕組みをつくることです。

データ活用基盤のご支援について、お気軽にご相談ください

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.

アンケートにご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします


アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

必須 1.会社名

必須 2.お名前

必須 3.セミナー資料を希望されますか

○ 希望する

○ 希望しない

セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。
ご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします。

Copyright © Panasonic Digital Co., Ltd.